令和８年度　宮崎県衛生環境研究所疫学研究倫理審査委員会　議事概要

１、開催日時

令和８年６月１９日（金）　午後２時～午後４時

２　開催場所

宮崎県衛生環境研究所　１階　会議室

３　出席者

(1)　倫理審査委員

研究所外有識者　南嶋　洋一、五島　自由、藤本　洋子

研究所職員　松本　公彦、西村　幸江、赤﨑　いずみ

(2)　研究責任者

微生物部　主任　矢野　浩司

主任技師　水流　奈己、　主任技師　成田　翼

(3)　事務局

所長　野中　勇志

企画管理課　課長　永田　奈津子、主任技師　山口　凌

微生物部　専任主幹　杉本　貴之

４　議事

(1)　開会

(2)　衛生環境研究所長挨拶

(3)　委員長（南嶋委員)、副委員長（五島委員）選任

(4)　議事（進行：南嶋委員長）

○　宮崎県における梅毒の流行状況の解析（終了の報告）

報告者：主任技師　水流　奈己

（概要）

本研究は、当初は令和４年４月１日から令和７年３月３１日までの研究予定であったが、昨年の倫理審査委員会で１年間の延長を承認もらい、令和８年３月３１日までの４年間で実施した。４年間で１２２名の患者から検体と調査データを収集できた。今年の調査研究検討会議で最終的な報告を行う予定である。

（質疑・意見）

藤本委員：全ゲノム解析について、わかりやすく説明してほしい。

水流主技：ゲノム解析とは、梅毒の全部の遺伝子配列を読み取って把握するものである。今回の研究では、当初の計画時よりも精度の高い検査が可能になったため、より詳細な解析を試みている。すべてのゲノムを読み取るには十分な遺伝子量が必要なため、収集した検体の中から遺伝子量が多いものを選択して解析を行っている。

南嶋委員長：梅毒の調査は社会的にも関心が高いテーマである。感染症発生動向調査でも「性風俗の利用歴」や「妊娠の有無」など、より詳細な項目が調査されている。歴史的にも倫理指針のきっかけとなった重要な疾患であり、宮崎県においてもこの研究が公衆衛生の向上に寄与することを期待している。

○　原因不明疾患の病原体検索（細菌）（中止の報告）

報告者：主任　矢野　浩司

（概要）

本研究は、令和７年４月１日から令和１０年３月３１日までの予定であったが、令和７年度の人事異動に伴い研究者が転出した。現在、本研究を継承する研究者がおらず、計画を適正に継続できる体制が困難となったため、中止することとした。

（質疑・意見）

藤本委員：宮崎県は出生率が全国の中では高い方ではあるが、少子化も深刻な状況である。この研究は、一人ひとりの子供の命を守るためにも非常に重要な研究だと思っている。人事異動によって研究が中断されてしまうのは非常に残念である。

五島委員：異動先で研究を続けることはできないものか。

矢野主任：異動先には研究用の機材がなく、異動先で研究を続けるのは困難である。他の職員での継続も検討したが、通常業務との兼ね合いもあり、やむなく中止することとした。

南嶋委員長：体制が整った際は、この研究の再開を検討していただきたい。

○　SFTS（重症熱性血小板減少症候群）ウイルス抗原検査キットの開発

報告者：主任技師　成田　翼

（概要）

本研究は、大阪大学等との共同研究である。SFTS の重症化を防ぐには早期診断が重要であるが、SFTS の初期症状が倦怠感、発熱などの一般的な風邪症状と見分けることが難しい状況である。今回の SFTS 診断用イムノクロマトキットの開発で、スクリーニング検査方法の確立を目指したい。

（質疑・意見）

藤本委員：宮崎県内でも SFTS による死亡例があり、非常に身近で恐ろしい病気だと感じている。早期発見ができるキット開発に期待している。

南嶋委員長：宮崎県は SFTS 患者数が全国トップレベルであり、この検査キットの開発は社会的に有意義である。

(5)　審議結果

いずれの報告、研究計画に関しても委員会で承認・許可となった。

(6)　公表について

審議結果及び議事録（概要）については公開となった。